

事業・社会資源の創出に関する保健師のコンピテンシー評価尺度の開発 信頼性・妥当性の検討

シオミ 塩見¹ ミサ 美抄^{2*} オカモト 岡本³ レイコ 玲子^{2*} イワモト 岩本³ サオリ 里織^{3*}

目的 保健師の事業・社会資源の創出に関するコンピテンシーを評価する尺度の開発に向け、先行研究において尺度項目を精選し、尺度原案を作成した。本研究では、この尺度原案の信頼性、妥当性を検討することを目的とする。

方法 尺度原案について、郵送による無記名自記式の質問紙調査を行った。調査対象は、無作為抽出した全国保健所4分の1、市町村保健センター20分の1に常勤する保健師全員であった。調査内容は、尺度原案と、事業・社会資源の創出能力に関する外部変数、経験年数、役職などの属性、学習会参加の有無であった。

尺度の表面妥当性の検討のため、尺度項目ごとに通過率を算出した。項目分析で尺度項目を精選した後、因子分析を行い、構成概念妥当性を検討した。信頼性の検討には、クロンバック α 係数、折半法を用いた。基準関連妥当性の検討には、外部基準との相関係数を算出した。また、尺度の活用可能性を検討するため、尺度得点と回答者の属性や学習会参加の有無との関連をみた。

結果 送付施設数250中184（73.6%）から返送があり、返送施設の対象数1,799人中回答者は1,261人（70.1%）、うち有効回答は1,112人（61.8%）であった。

各尺度項目の平均値は、1.97から3.44の範囲であった。

尺度項目ごとの通過率は、いずれの項目も96.0%以上であり、表面妥当性が認められた。項目分析によって、24項目中6項目を削除した。因子分析によりさらに2項目を削除し、3因子16項目で最適解を得た。各因子名は「創出の必要性の把握」、「創出の推進と具現化」、「創出に向けた協同」とした。クロンバック α 係数や、折半法による信頼係数は、0.76から0.95の範囲であり、信頼性が認められた。外部変数との相関係数は、0.50から0.69の範囲であり、外部変数と尺度得点との相関が認められた。回答者の経験年数、所属機関、役職、学習会参加の有無による尺度得点の差を検定した結果、いずれにおいても有意確率1%で有意な差が認められた。

結論 保健師の事業・社会資源の創出に関するコンピテンシーを測る尺度原案を作成し、その信頼性・妥当性を検討した結果、3因子16項目から成る尺度が得られ、各因子および尺度全体において、信頼性・妥当性が確認された。

尺度得点には、経験年数、所属機関、役職、学習会参加との関連が認められ、これは既存文献の示す知見と同様であった。

本研究で得られた尺度は今後、保健師の事業・社会資源の創出能力の自己評価に活用可能である。

Key words : 保健師, コンピテンシー, 事業・社会資源の創出, 尺度開発

* 神戸大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程

^{2*} 岡山大学大学院保健学研究科

^{3*} 神戸市看護大学

連絡先：〒673-8588 兵庫県明石市北王子町13-71
兵庫県立大学看護学部 塩見美抄